

## 電子・情報工学系

教員数	教員等数 (人)	教授 28 (29)	助教授 22 (20)	講師 15 (15)	助手 7 (8)	技官〔準研〕 - (1)	
	異動状況 (人)	退職・転出 4 (6)	昇任 3 (4)	採用 4 (8)	学内 - (-)		
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数		学会発表数			
		国内	国外	国内	国外		
	87 (97)		77 (121)		257 (237)		184 (140)
	受賞数	48 (8件)					
	研究費等	採択件数		採択率(%)		金額(千円)	
		科学研究費	46 (40)	49.4 (39.2)		直接 125,300 (103,560) 間接 3,150 (1,590)	
		学内プロ	19 (16)	45.2 (40.0)		20,500 (15,300)	
奨学寄附金件数・金額		26件	21,390千円		(23件	18,491千円)	
受託研究件数・金額		17件	直接 72,300千円 間接 7,589千円	(8件		直接 6,739千円 間接 886千円)	
受託研究員		人 (人)					
施設・設備							

・( )は前年度の数値を示す。

### 1 電子・情報工学系の活動

人事は引き続き精力的に行っており、人事の活性化を図っている。本年度の新任者は4名、昇任者3名であった。一方、退職・転出者は4名であった。本年度末の在職者(教員)72名中の6名が外国籍の教員である。

研究活動は表に示すとおり活発に行われている。研究活動のうち、TARAセンターのTARAプロジェクトに関しては、平成12年度発足の大田プロジェクト、平成13年度発足の田中プロジェクト、平成14年度発足の椎名プロジェクト・寅市プロジェクトの4つが実施中であり、また、特別プロジェクトに関しても、動的脳機能ところこのアメニティ特別プロジェクトに研究員として本学系の教員が参加しており、学際的な活動を行っている。学内の情報化に関しては、高速キャンパスギガビットネットワーク、事務処理の情報化、附属学校の計算機システムやネットワークなど多岐にわたって、本学系から多数の教員が貢献した。

研究費に関しては、昨年度に比べて、科研費は微増(採択件数1.5割増・金額2.2割増)、奨学寄附金は採択件数と金額共に増加した(採択件数1.3割増・金額1.6割増)。受託研究は大型の受託があり増加した(採択件数11.3割増・金額94.8割増)。科学技術振興調整費は2件(30,792千円)および民間等との共同研究は13件(19,454千円)であった。教官の兼業は、4名(7件)と非常に活発に民間企業との協力関係が続いている。さきがけやCREST等の大型研究費の受け入れも6件あった。

国際交流に関しても、文部科学省の在外研究員として2名、その他の在外研究員として1名が派遣された。受け入れに関しては、日本学術振興会の外国人特別研究員1名、外国人研究者2名、中国政府派遣研究員2名、その他に1名を受け入れている。

### 2 自己評価と課題

ここ数年来、研究室、実験室の不足が深刻になっており、引き続き、あらゆる機会をとらえて研究施設の確保を行うことが今後の課題である。

### 3 その他特記事項

平成13年度の電子・情報工学系外部評価に引き続き、平成15年2月24日に電子・情報工学系シンポジウムを開催して、教官の研究内容を国内外に公開および発表した。約100名の研究者や学生の参加があり、学系研究活動の積極的な情報発信を行った。